



2024年12月期第1四半期決算説明資料

2024年5月
株式会社セレス（東証プライム市場：3696）





INDEX

1. 連結決算の概要

2. 各事業の業績

モバイルサービス事業

フィナンシャルサービス事業

APPENDIX



1. 連結決算の概要



2024年度第1四半期実績

売上高	6,718 百万円	(+21.6%)
営業利益	713 百万円	(+181.2%)
経常利益	1,140 百万円	(+224.0%)
四半期純利益	832 百万円	(+313.8%)

- 売上高は前年比21.6%増収で好調維持
- 粗利率は49.0%、営業利益も前期比2.8倍と共に現中計期間で四半期最高に
- 暗号資産市場活況によりBBが好調で経常利益以下も大幅増益に

モバイルサービス事業

売上高	6,275 百万円	(+18.1%)
営業利益	1,119 百万円	(+63.1%)

- モッピー・D2Cが好調で大幅増収に、特にモッピー粗利率改善が利益拡大に寄与
- DX・AD.TRACKは前年同期比減収減益

フィナンシャルサービス事業

売上高	447 百万円	(+104.8%)
営業利益	▲54 百万円	(82百万円赤字縮小)

- 暗号資産市場活況もありマーキュリーのステーキング事業が大幅に拡大
- ラボルではファクタリング・カード払いともに好調でGMVが前年同期比で3.6倍に拡大



ポジティブ

モッピーの
粗利率向上

18.1%

2023年1Q



26.8%

2024年1Q

- モッピー前年の原価計上期ずれの影響解消
- モッピーとAD.TRACKの連携が進み、粗利率向上

D2C売上高が
前年同期比2.7倍

645百万円

2023年1Q



1,751百万円

2024年1Q

- 引き続き「ピットソール」の販売好調
- 定期販売商品である「オイグルト」のユーザーが順調に増加

暗号資産市場活況

ビットコイン価格

378万円

2023年3月末



1,079万円

2024年3月末

- マーキュリーのステーキング残高増加で収益が拡大、赤字縮小
- 取引高増加に加え暗号資産価格上昇によりBBも大幅黒字

ネガティブ

DX前年比減収減益

▲18.7%

売上高

▲79.3%

営業利益

- 既存案件の端境期となったこともあり減収・減益に
- 強みのデザイン案件をフックに案件獲得推進

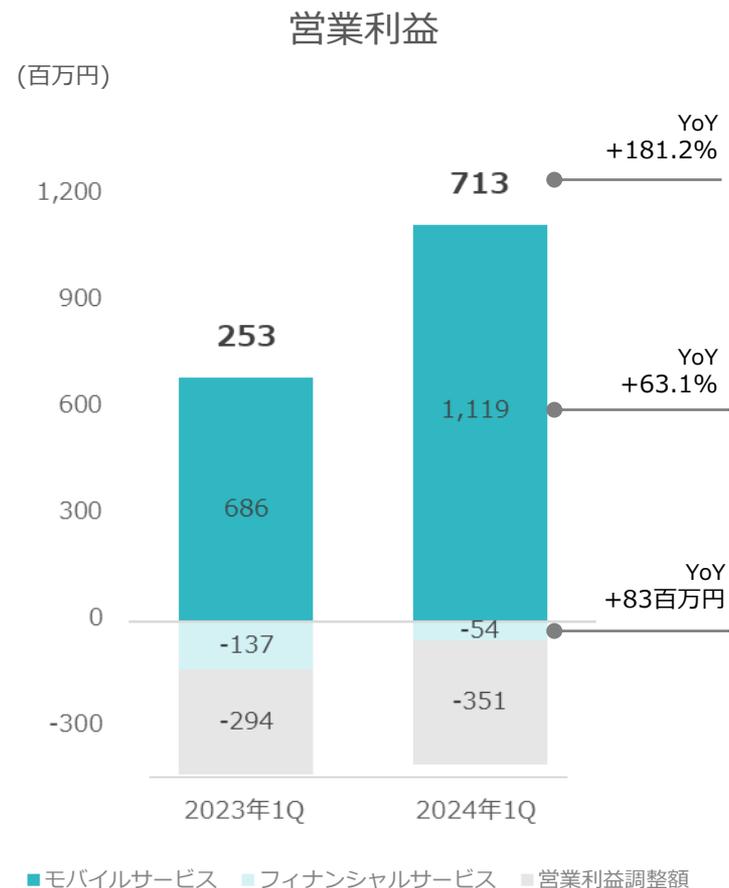
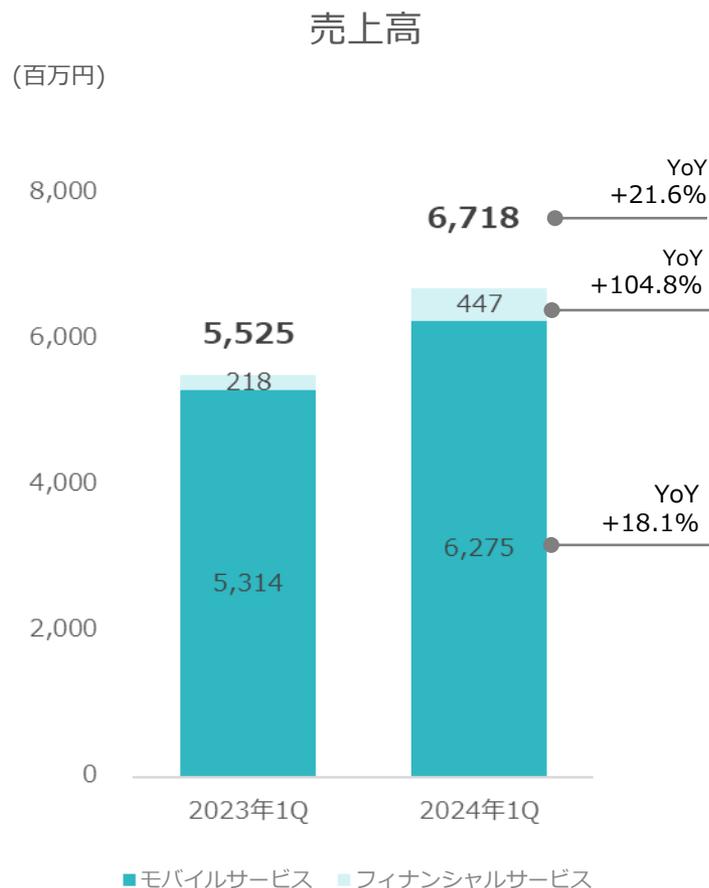
損益計算書の概要

(単位：百万円)	第1四半期 (2024年1-3月)	前年同期 (2023年1-3月)	前年同期比	前四半期 (2023年10-12月)	前四半期比
売上高	6,718 (100.0%)	5,525 (100.0%)	+21.6%	6,777 (100.0%)	-0.9%
売上総利益	3,292 (49.0%)	2,179 (39.4%)	+51.1%	3,167 (46.7%)	+4.0%
販売費及び 一般管理費	2,579 (38.4%)	1,925 (34.8%)	+33.9%	2,785 (41.1%)	-7.4%
営業利益	713 (10.6%)	253 (4.6%)	+181.2%	382 (5.6%)	+86.6%
経常利益	1,140 (17.0%)	352 (6.4%)	+224.0%	483 (7.1%)	+136.0%
四半期純利益※1	832 (12.4%)	201 (3.6%)	+313.8%	339 (5.0%)	+144.9%
EBITDA※2	1,255 (18.7%)	483 (8.8%)	+159.7%	566 (8.4%)	+121.6%

※1 四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

モバイルはモッピー・D2C好調で大幅増収、モッピー粗利率改善で増益 フィナンシャルはステーキング好調・暗号資産市場活況で2.2倍に増収・赤字縮小



※ セグメント間の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

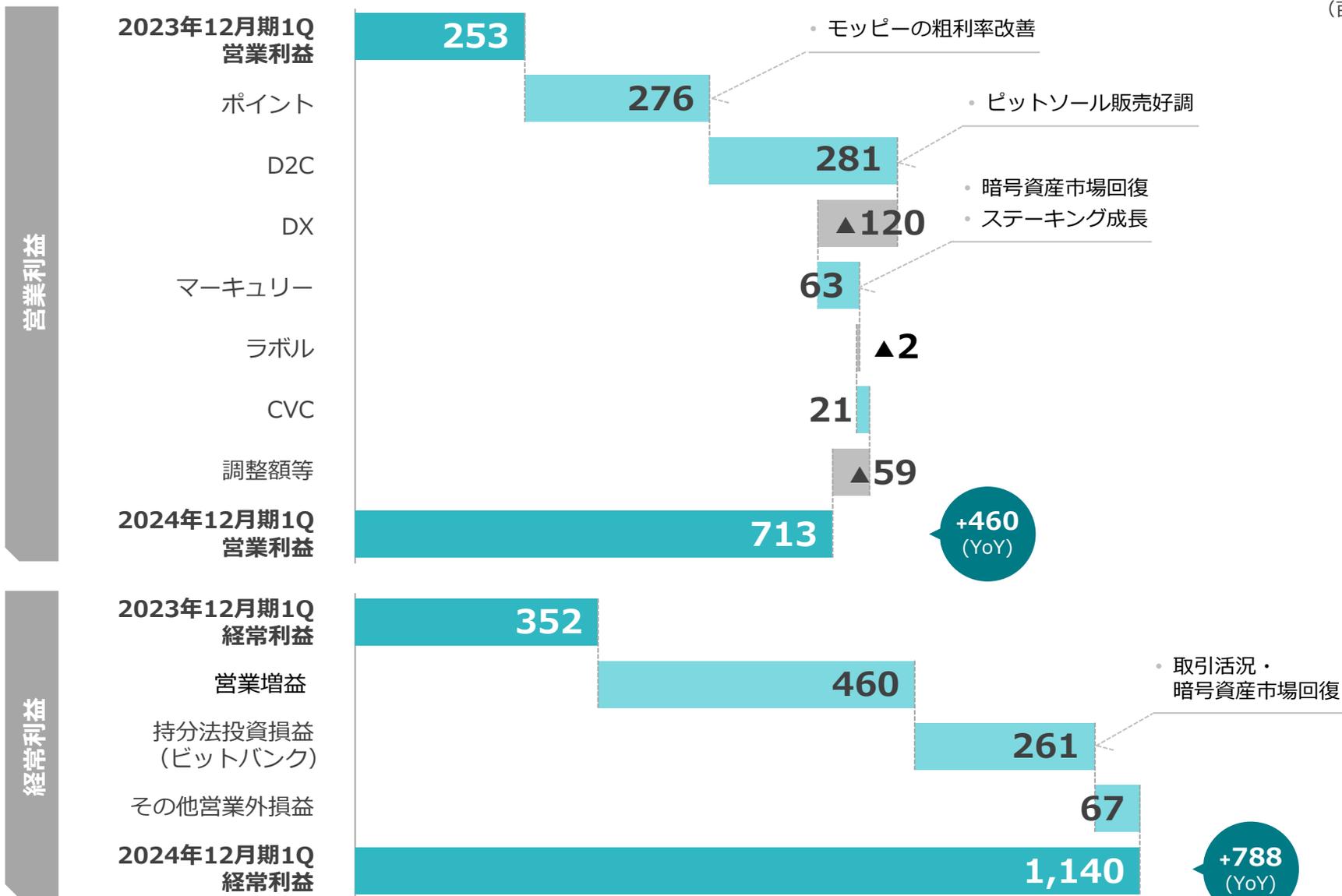
※ 営業利益調整額は特定のセグメントに帰属しない費用項目です。

セグメント別業績

(単位：百万円)	売上高		営業利益	
	第1四半期 (2024年1-3月)	前年同期 (2023年1-3月)	第1四半期 (2024年1-3月)	前年同期 (2023年1-3月)
全社	6,718 YOY +21.6%	5,525	713 YOY +181.2%	253
モバイルサービス事業	6,275 YOY +18.1%	5,314	1,119 YOY +63.1%	686
ポイント	3,553 YOY +0.8%	3,525	782 YOY +54.7%	506
D2C	1,751 YOY +171.3%	645	341 YOY +470.5%	59
DX	983 YOY -18.7%	1,210	31 YOY -79.3%	152
セグメント内取引高	-13 YOY -	-66	-36 YOY -	-32
フィナンシャルサービス事業	447 YOY +104.8%	218	-54 YOY -	-137
セグメント間取引高 /調整額	-4 YOY -	-7	-351 YOY -	-294

営業利益・経常利益の増減要因

(百万円)

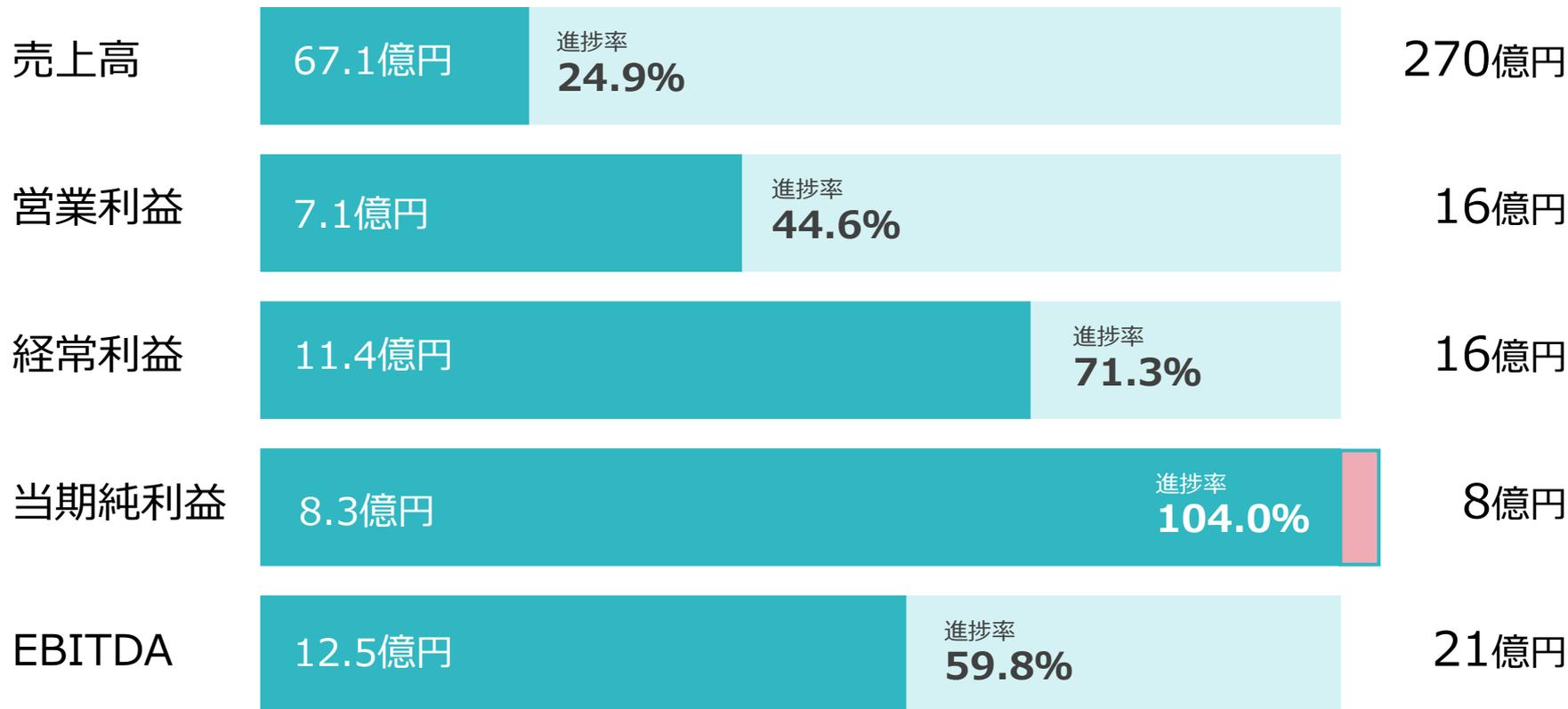


期初業績予想に対する進捗状況

売上高は事業ごとに進捗は異なるものの想定どおりの着地に
営業利益はモッピーの粗利率改善により想定以上の進捗
経常利益は期初予想に織り込んでいないBBの持分法投資利益計上により上振れ

1Q実績

【期初業績予想値】



業績予想の修正について

(単位：百万円)	2024年12月期 修正予想	2024年12月期 期初予想	期初予想 増減額	期初予想 増減率
売上高	27,000	27,000	-	+0.0%
営業利益	1,600	1,600	-	+0.0%
経常利益	2,000	1,600	400	+25.0%
当期純利益※1	1,200	800	400	+50.0%
EBITDA※2	2,500	2,100	400	+19.0%

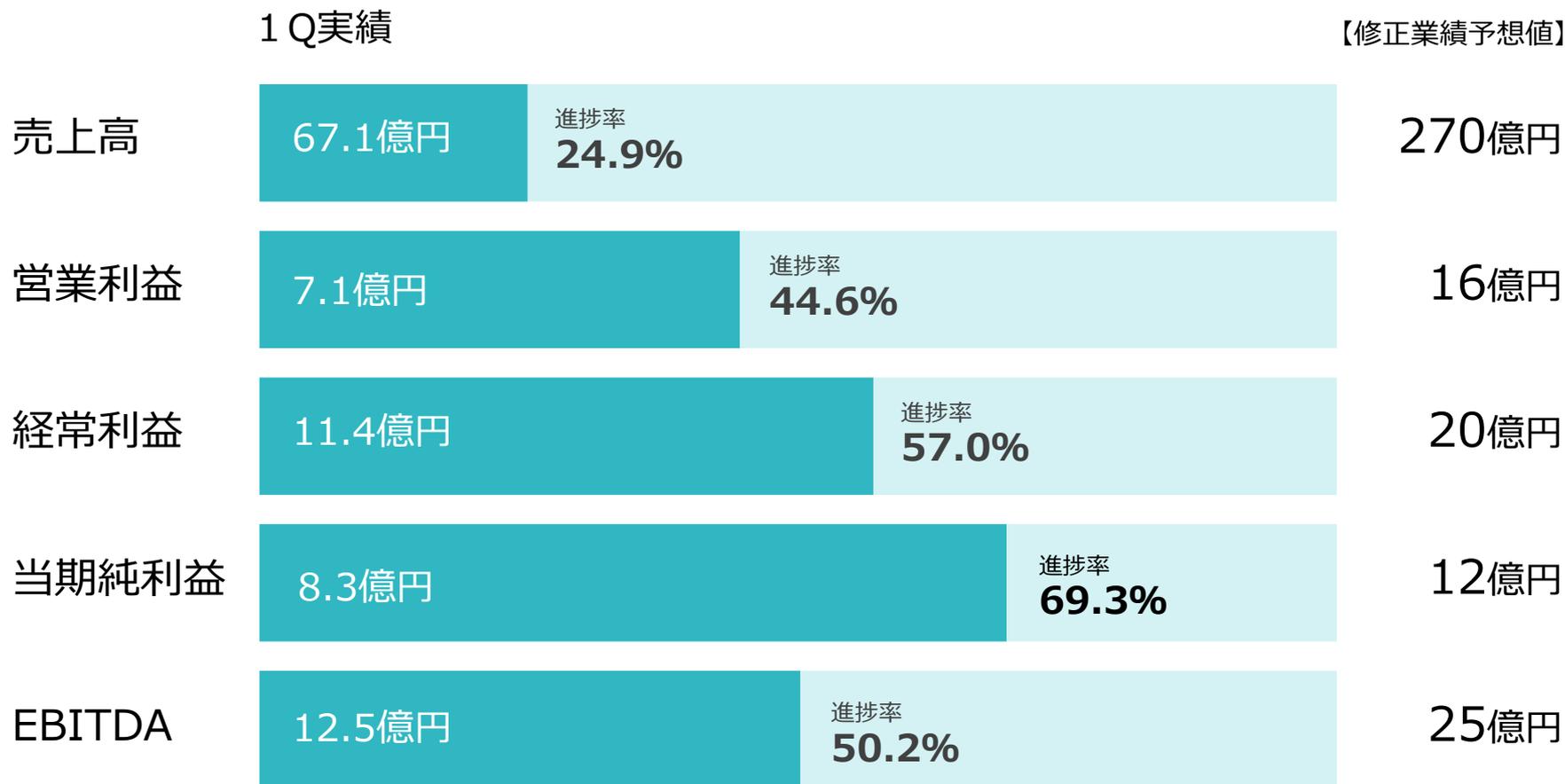
業績予想修正の理由

- 売上高は期初計画通りの進捗
- 営業利益は、
 - モッピーの粗利率改善、D2Cの好調により、期初計画を上回って推移
 - 特定のリスクは見込んでないが、今後の状況を見極めるため現段階では営業利益予想の修正なし
- 期初予想に織り込んでいなかったBBの持分法による投資利益を370百万円計上、
経常利益、当期純利益を各400百万円増額修正

※1 当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を示します。

※2 EBITDA = 税金等調整前当期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

売上・営業利益は今後の情勢変化を鑑み、期初予想の数値を据え置き
2Q以降の予想には従前通りBBの持分法投資損益の発生は想定していない



貸借対照表の概要

(単位：百万円)		2024年12月期 第1四半期末	2023年12月期 期末	前年増減額	主な要因
流動資産	流動資産	18,895 (67.7%)	17,586 (67.9%)	+1,308	現金及び預金 +683 商品在庫 +160 営業投資有価証券 +8
	固定資産	9,015 (32.3%)	8,328 (32.1%)	+687	ソフトウェア +62 関係会社株式 +374 のれん -51
資産合計		27,911 (100.0%)	25,915 (100.0%)	+1,996	
流動負債	流動負債	14,273 (51.1%)	13,451 (51.9%)	+821	短期借入金 +221 未払法人税等 -7 ポイント引当金 -45
	固定負債	2,330 (8.3%)	2,417 (9.3%)	-87	長期借入金 -167
負債合計		16,603 (59.5%)	15,869 (61.2%)	+734	
純資産合計		11,307 (40.5%)	10,045 (38.8%)	+1,261	当期純利益 +832 配当金 -228
負債・純資産合計		27,911 (100.0%)	25,915 (100.0%)	+1,996	

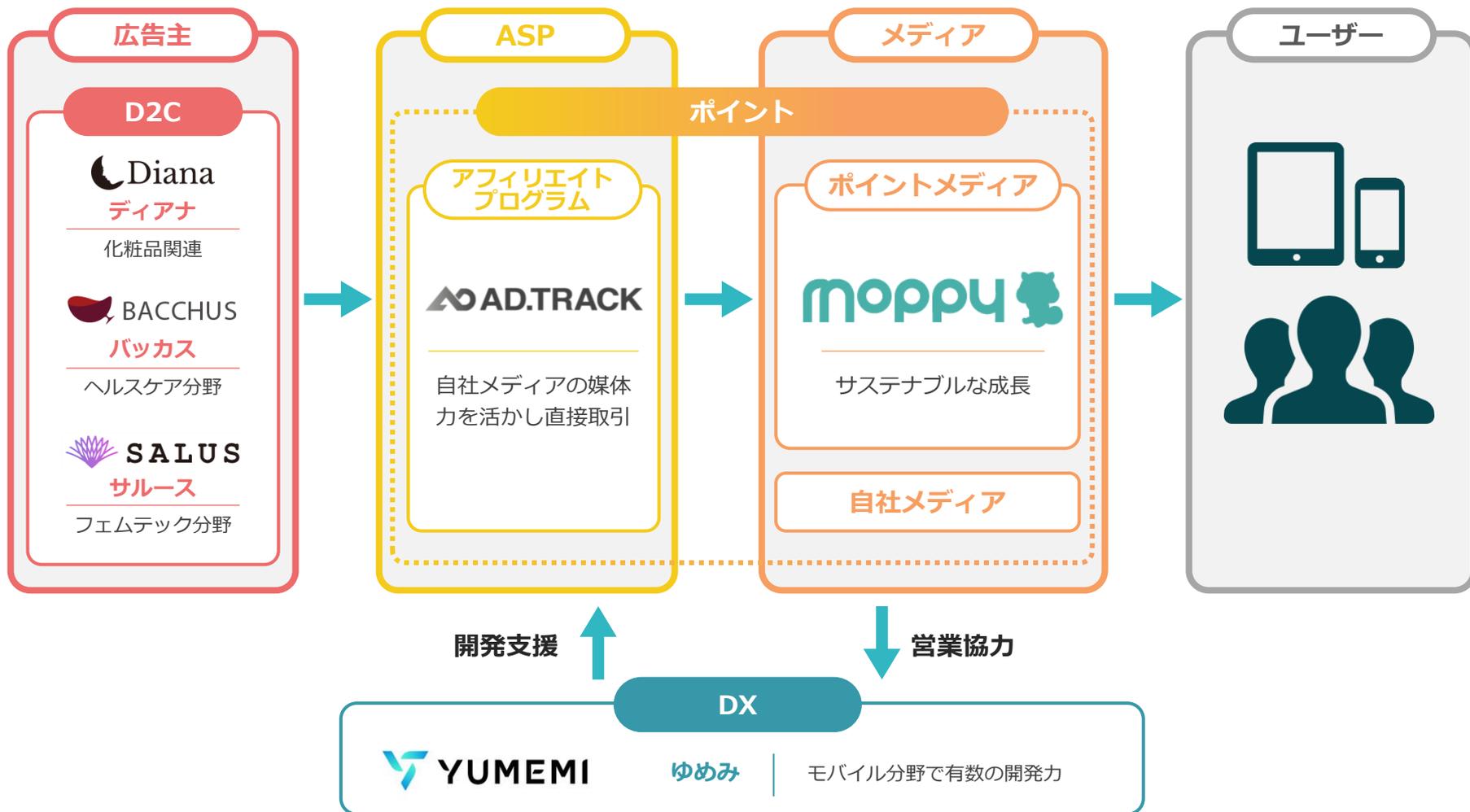


2. 各事業の業績

モバイルサービス事業

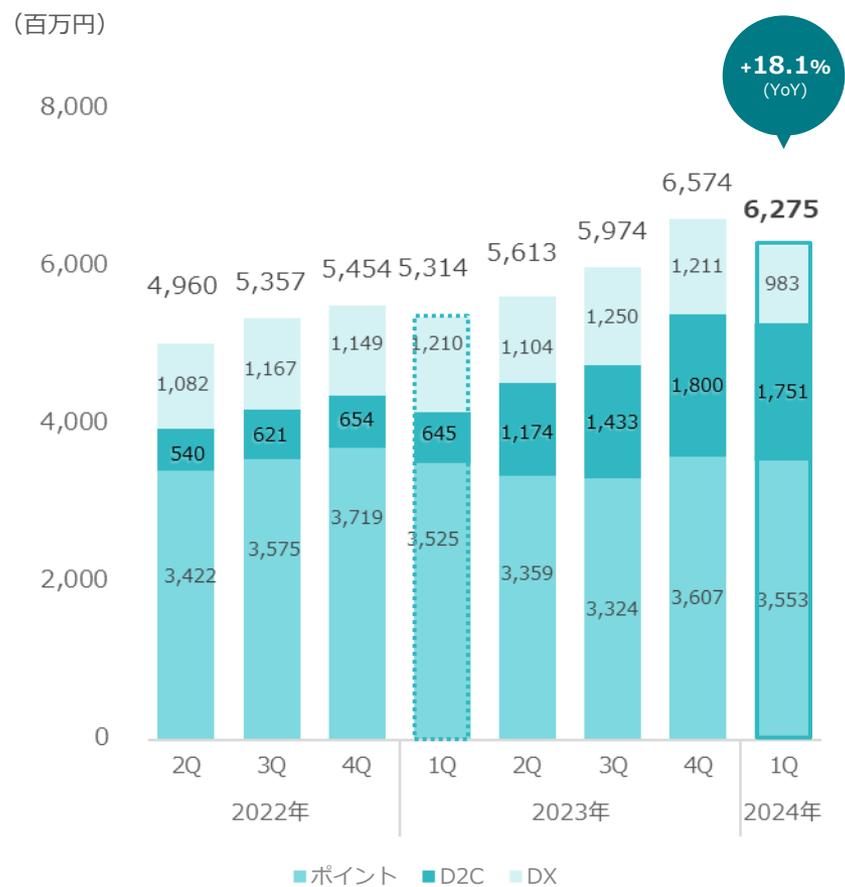
フィナンシャルサービス事業

モッピー・アドトラック・D2Cの相互連携でシナジーを創出

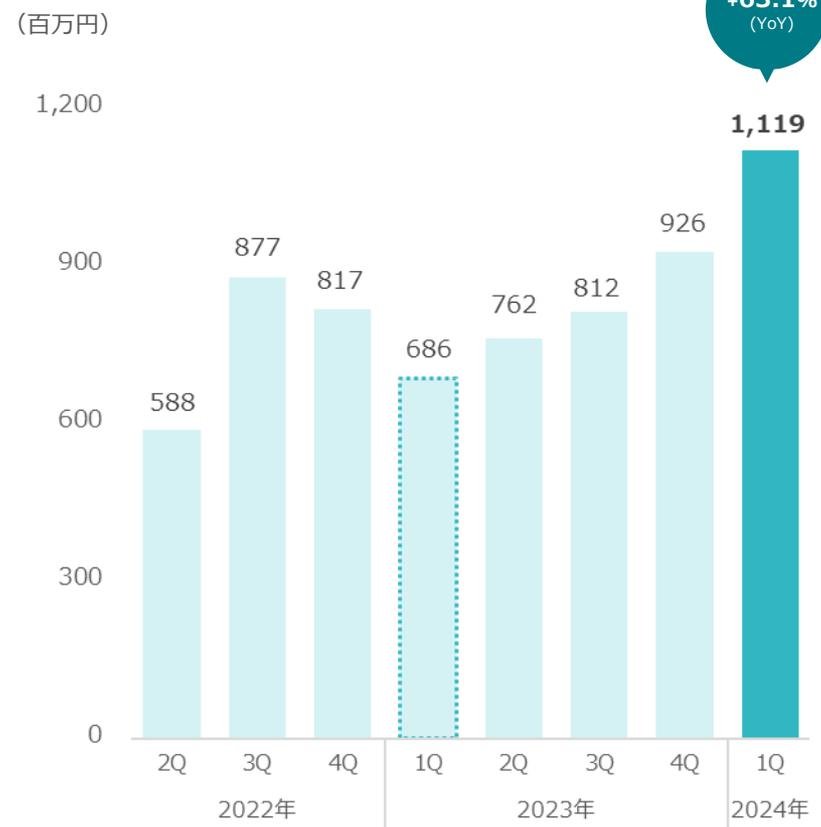


売上高はモッピー好調・D2C大幅増収によりDXの苦戦を吸収し、前年比で増収
 営業利益はモッピーの粗利率改善とD2C販売好調により前年比1.6倍の大幅増益

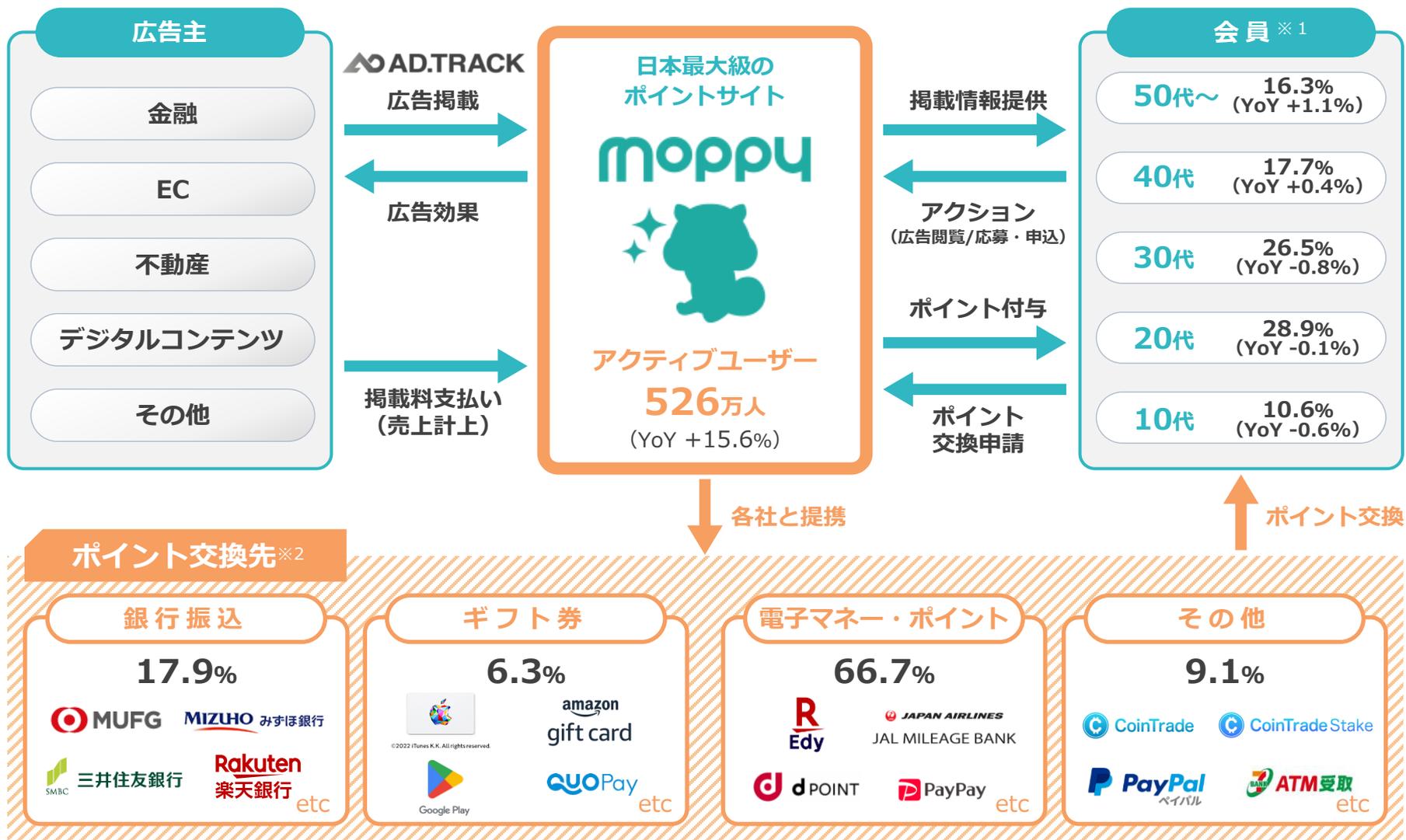
売上高



営業利益



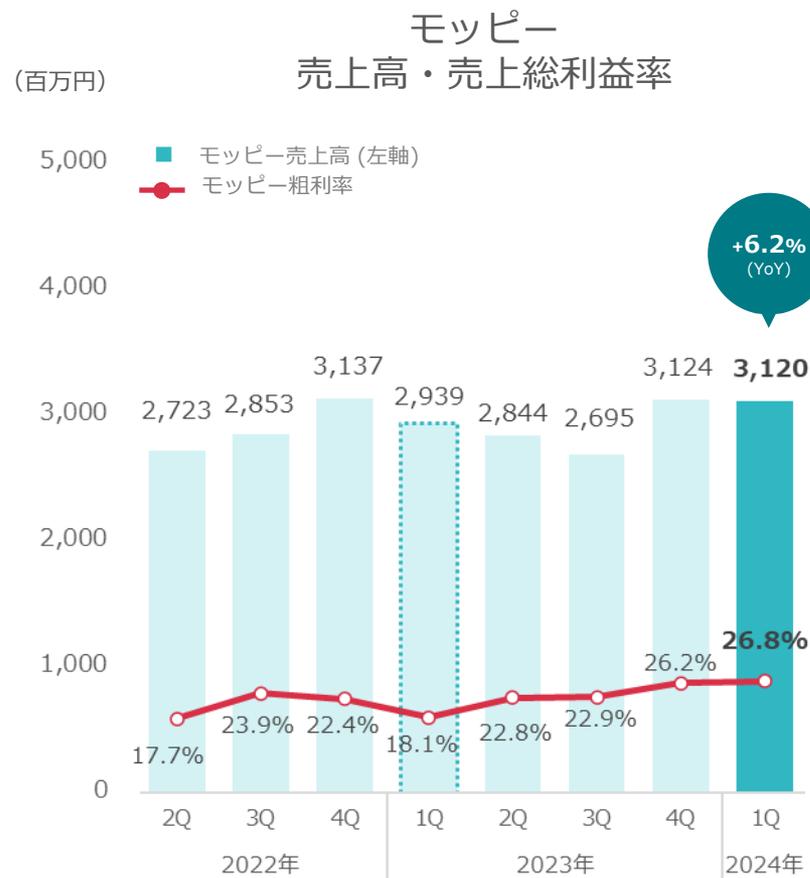
モッピーのビジネスモデル



※ 1 2024年3月末日時点の割合

※ 2 2024年1~3月に発生したポイント交換割合

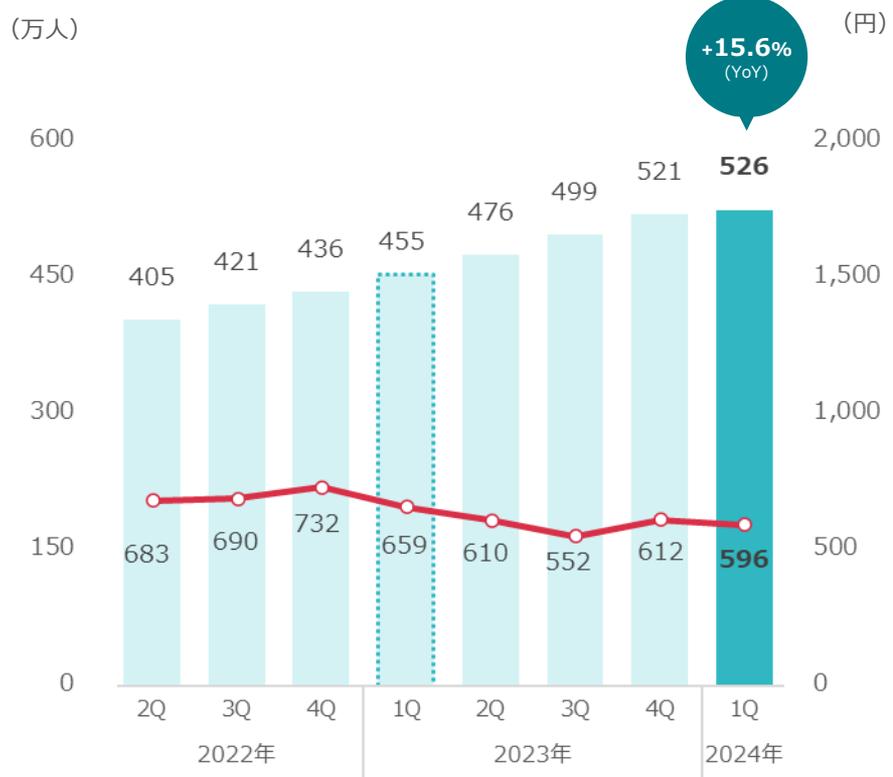
AD.TRACK・記事広告型メディアで苦戦もモッピー好調により前年比で増収 前年の粗利悪化要因解消に加えモッピーとAD.TRACKの連携が進み粗利率改善



※ セグメント内の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

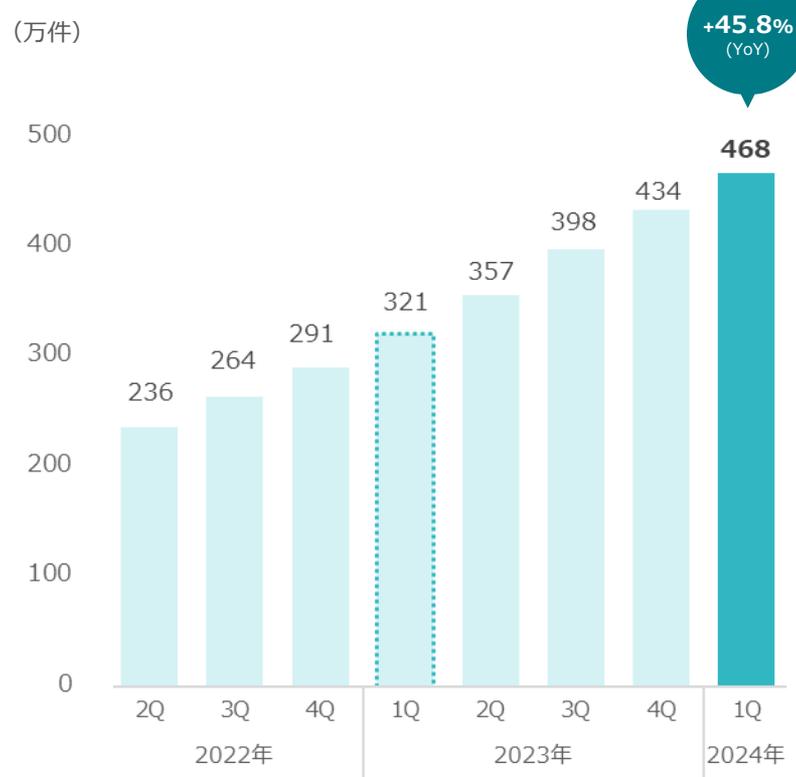
新規入会が好調に推移し、累計ユーザー数は1,200万人を突破
 休眠ユーザーの精査による離脱を上回る流入で会員数は前年比・前四半期比増加

アクティブ会員数・ARPU



■ アクティブ会員数(左軸) ●- ARPU(右軸)

アプリダウンロード数



※ ARPUは、モッピーの四半期売上高を期中平均のモッピーアクティブ会員数で除して算出

1to1マーケティングの強化

moppy



モッピーの メディア価値向上

▶エンゲージメント醸成

- 広告利用UU増加
- 顧客維持率上昇

LTV増加

▶CVR向上

- 広告利用頻度向上
- 成果件数上昇

ARPU向上

蓄積した 豊富なユーザーデータ

- ▶ユーザー属性
(年代・性別・居住地域など)
×
- ▶ユーザーの行動履歴
(閲覧履歴・アクション履歴など)
×
- ▶ポイント獲得・利用情報

MAツール導入

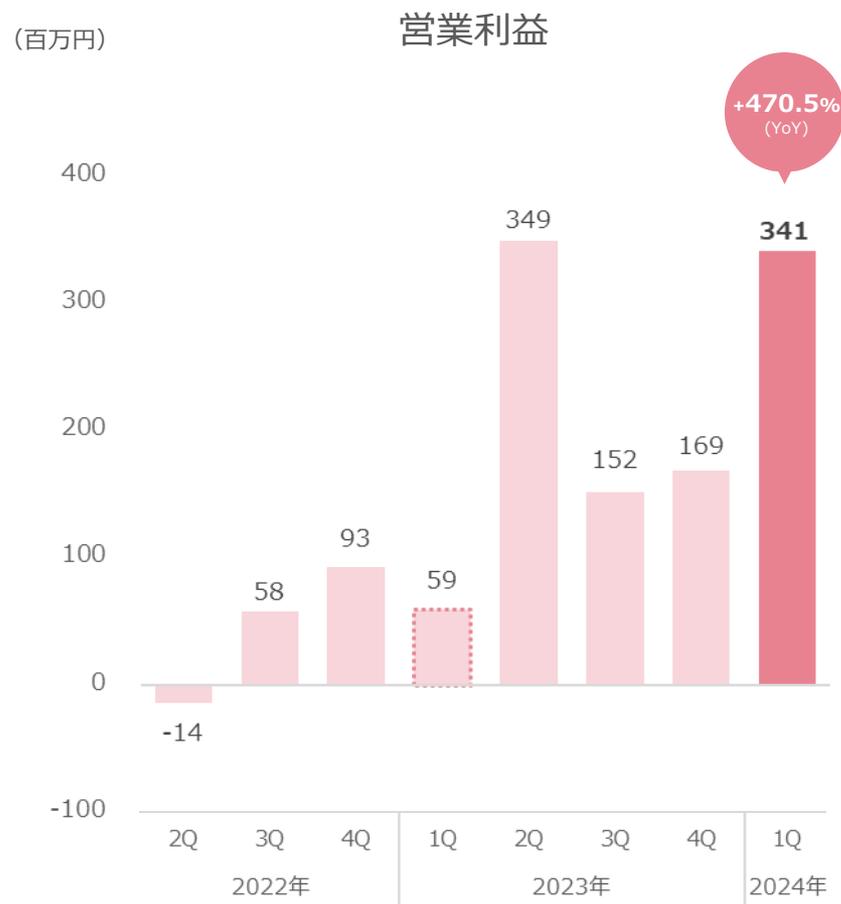
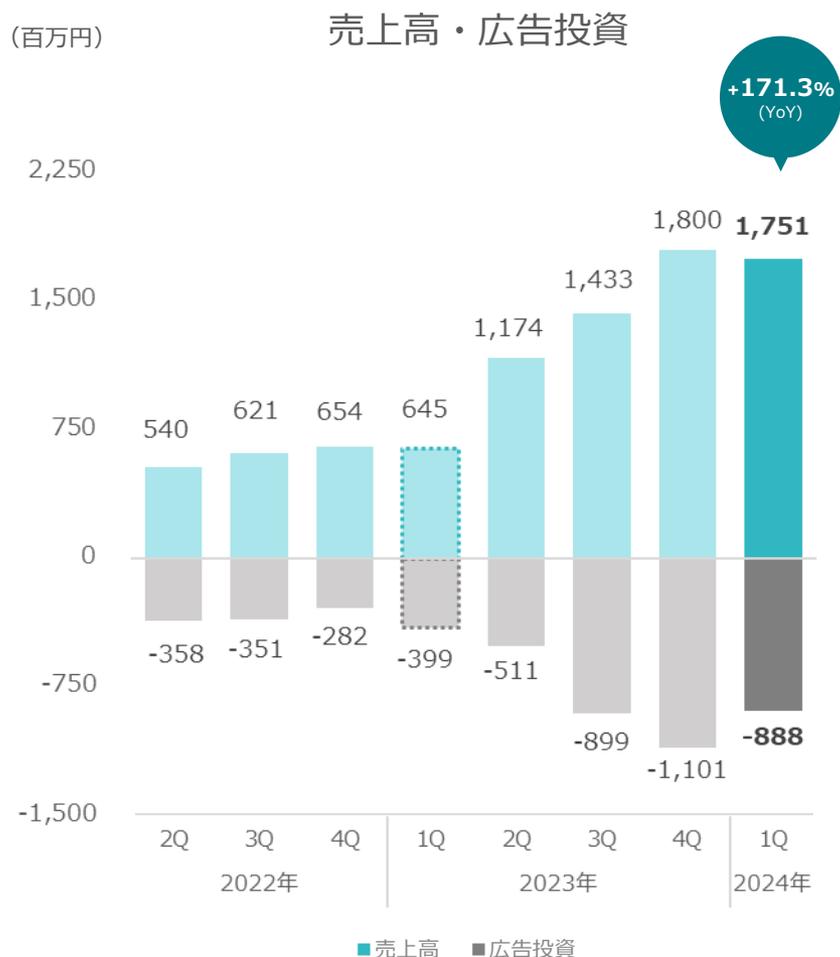
(SalesForce Marketing Cloud)

MA (マーケティングオートメーション) ツール導入によりユーザーデータをAI分析

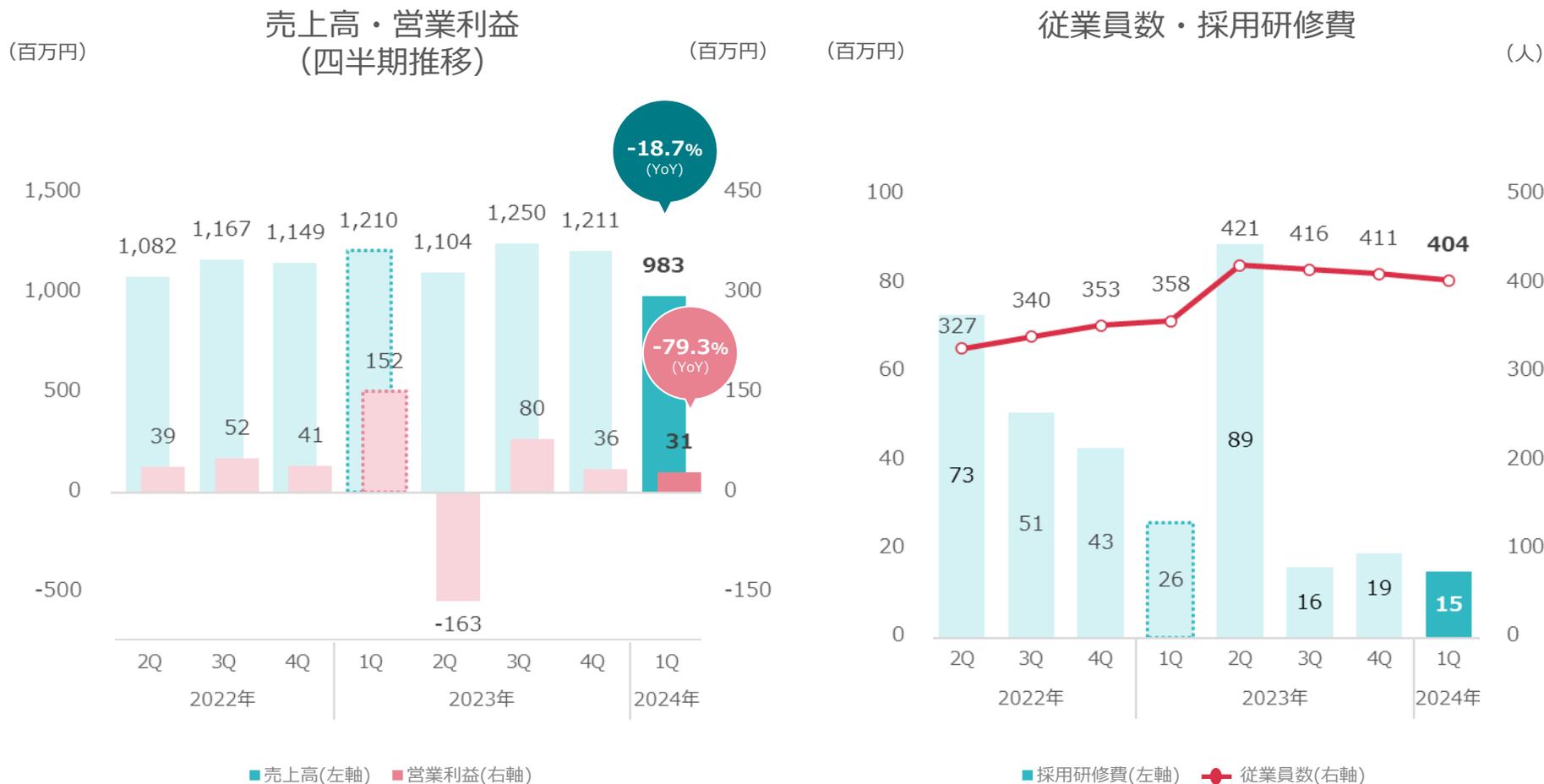
UX向上

- 個人の嗜好に合わせた広告展開
- パーソナライズされたレコメンドや通知を送付
- 最適なタイミングで情報を提供

「ピットソール」が引き続き好調で売上高は需要期である前四半期並みを維持
 新色ブラック販売好調に加え、定期販売商品である「オイグルト」の販売も好調



既存案件の端境期到来に加え、会計方針の見直し※もあり前年比で減収・減益に
受注好調のデザイン案件ブックに他分野へのクロスセルを推進し稼働率上昇を図る



※ 2024年1Q以降、一部準委任契約案件の収益にかかる会計方針の見直しにより売上高計上の期ずれが発生しております。

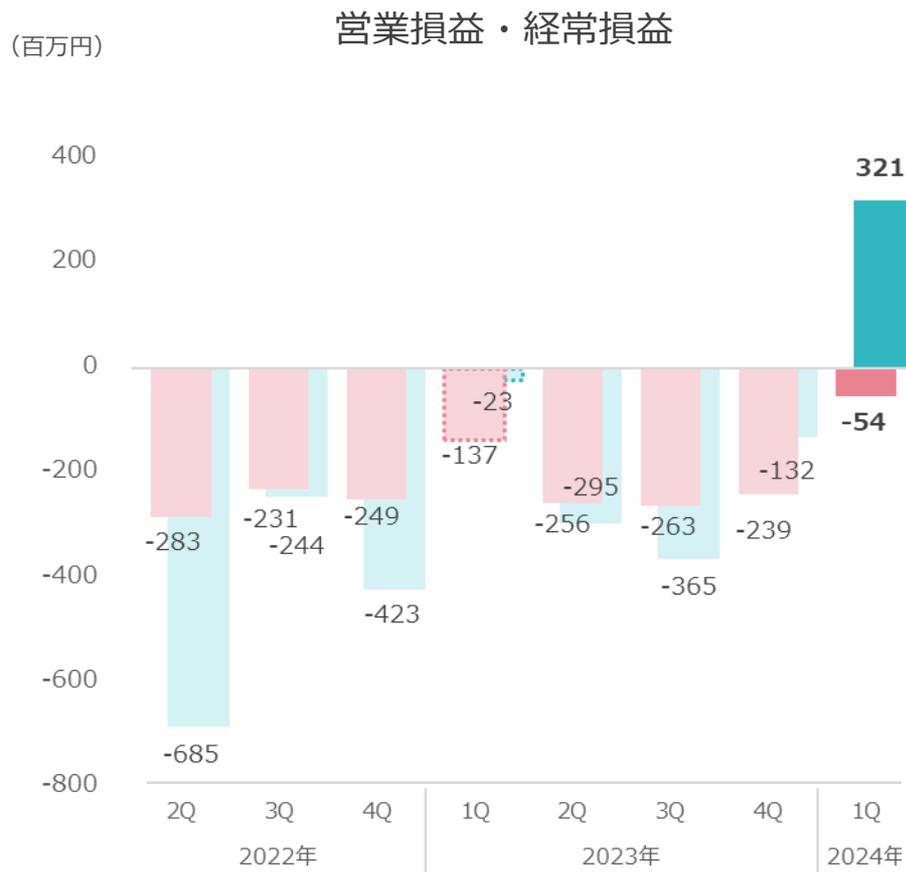
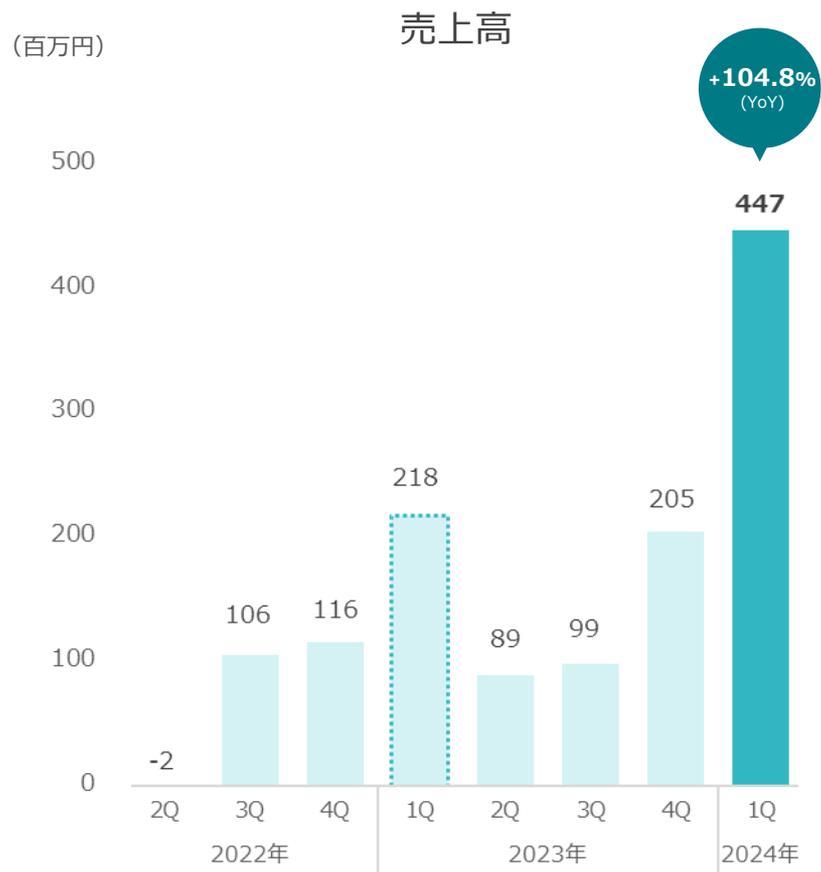


2. 各事業の業績

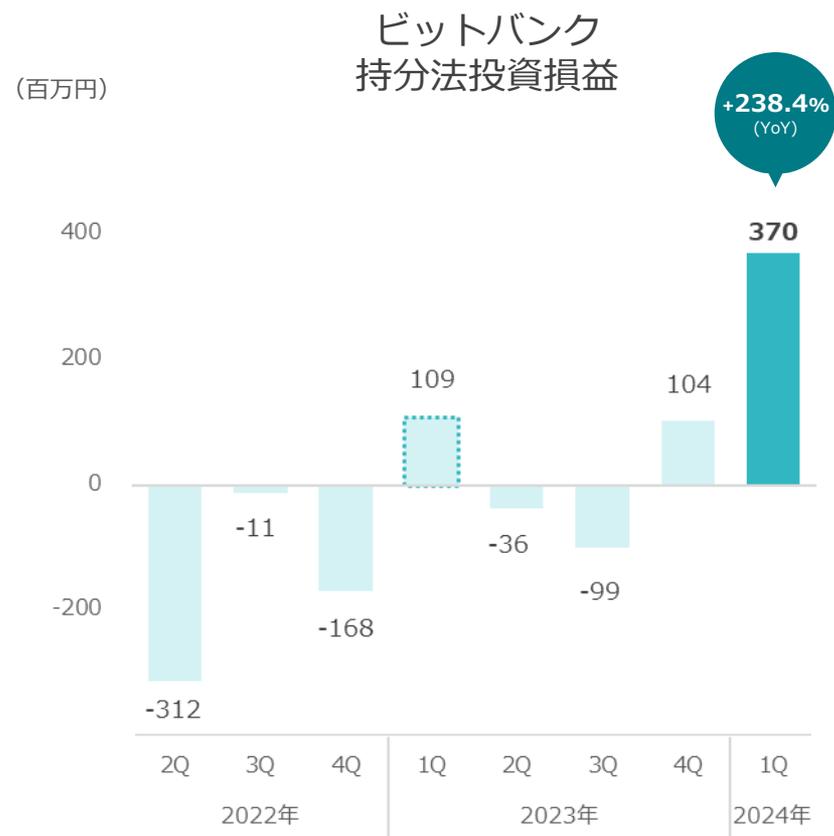
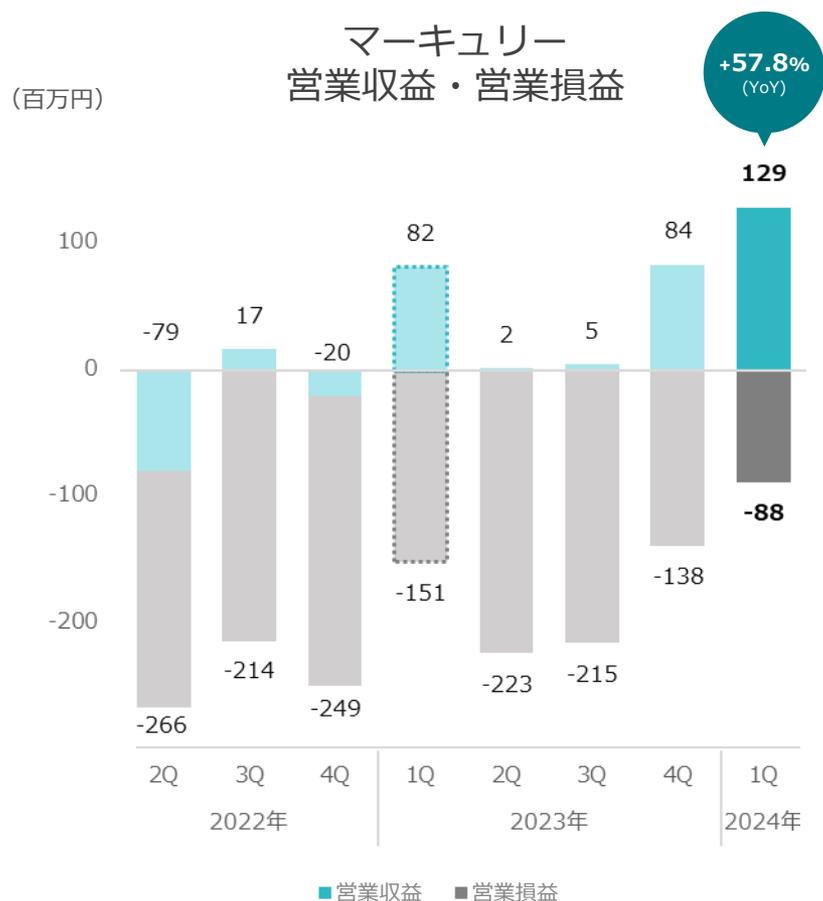
モバイルサービス事業

フィナンシャルサービス事業

マーキュリーのステーキング事業、ラボルのファクタリング・カード払いが好調
CVCで株式売却もあり大幅増収、BBで持分法利益を計上し経常損益は大幅黒字に



マーキュリーはステーキング事業が順調に進捗、暗号資産価格上昇もあり赤字縮小
 BBも暗号資産価格上昇に加え、取引活況でQ1は370百万円の持分法投資利益を計上



米国BTC現物ETF上場により暗号資産相場活況、ETFの純資産合計は589億ドル* BTC半減期もあり、需給改善によりBTC中心に暗号資産市場活況が期待される



出所：CoinMarketCapよりセレス作成
* 2024年4月30日現在

ステーキングサービスにより暗号資産を資産運用の手段の一つとして提案
今後新たなサービスを追加し暗号資産のトータル運用プラットフォームに

1 保有資産の有効活用
相場低迷時でも資産を有効活用

2 安定した収益
インカムゲイン

3 リスク分散
新たなアセットクラス



預かり残高から得る安定したストック収益

投資育成事業（CVC）について

第1四半期はエンタメ系スタートアップ1社80百万円の新規投資を実行
1号ファンドで1社株式売却、売上高160百万円・売上総利益70百万円を計上

(2024年3月末)



モバイルサービスと連携

メディア・D2C関連



フィナンシャルサービスと連携

フィンテック・ブロックチェーン関連



valuedesign



adish



IPO実績 8社



APPENDIX



APPENDIX

会社概要

インターネットマーケティングを通じて 豊かな世界を実現する

セレスは、社会インフラとなったインターネットを通して、
様々なマーケティングサービスを提供することにより、
豊かな社会生活の実現をはかります。

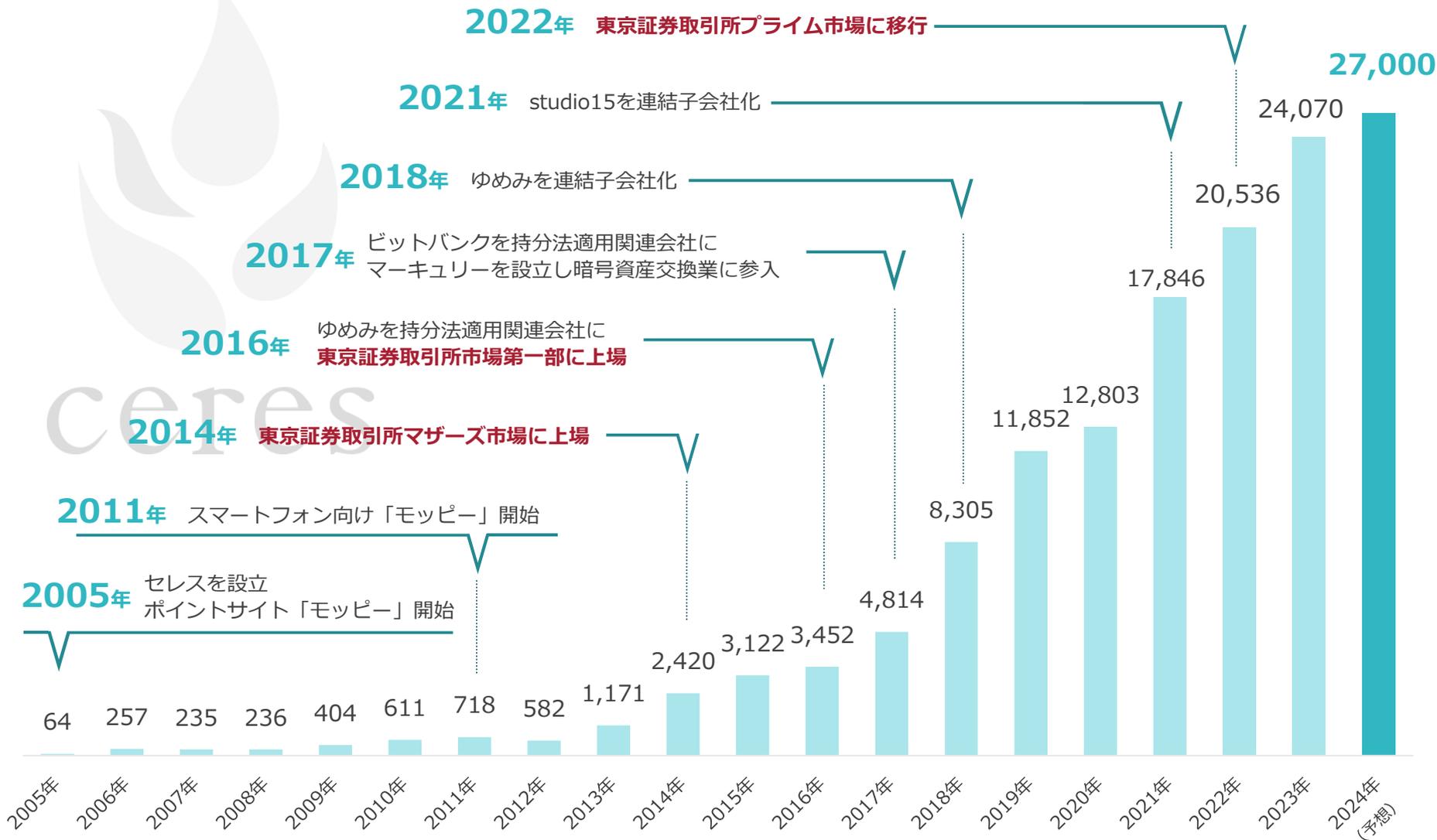
「トークンエコノミーを創造」



CERESとはギリシャ神話の「大地の女神」、「五穀豊穡の神」。
CERESはローマ名で、ギリシャ名はDemeter（デメテル）。



会社名	株式会社セレス
設立年月日	2005年1月28日
所在地	東京都渋谷区桜丘町1番1号 渋谷サクラステージ SHIBUYAタワー21F
決算期	12月
資本金	20億4,639万円（2024年3月末現在）
代表者	代表取締役社長 都木 聡
従業員数（連結）	615名（2024年3月末／臨時雇用者除く）
事業内容	モバイルサービス事業 フィナンシャルサービス事業
連結子会社	株式会社マーキュリー、株式会社ディアナ、株式会社バックス、studio15株式会社、株式会社ラボル、株式会社サルス、株式会社アポロ・キャピタル、株式会社ゆめみ、Apollo Capital 1号投資事業有限責任組合
持分法適用関連会社	ビットバンク株式会社



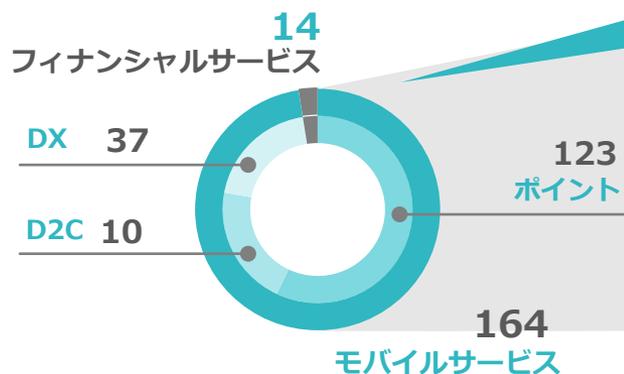
※ 売上高は新収益認識基準等を遡及適用したと仮定して記載しております。

売上高 (単位: 百万円)

中期経営計画2026の売上・利益構成

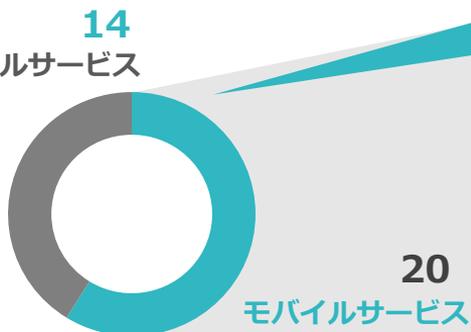
2021

売上高
178億円



※モバイルサービスの内部取引▲6億円含む

経常利益
34億円



2026

売上高
400億円



350
モバイルサービス

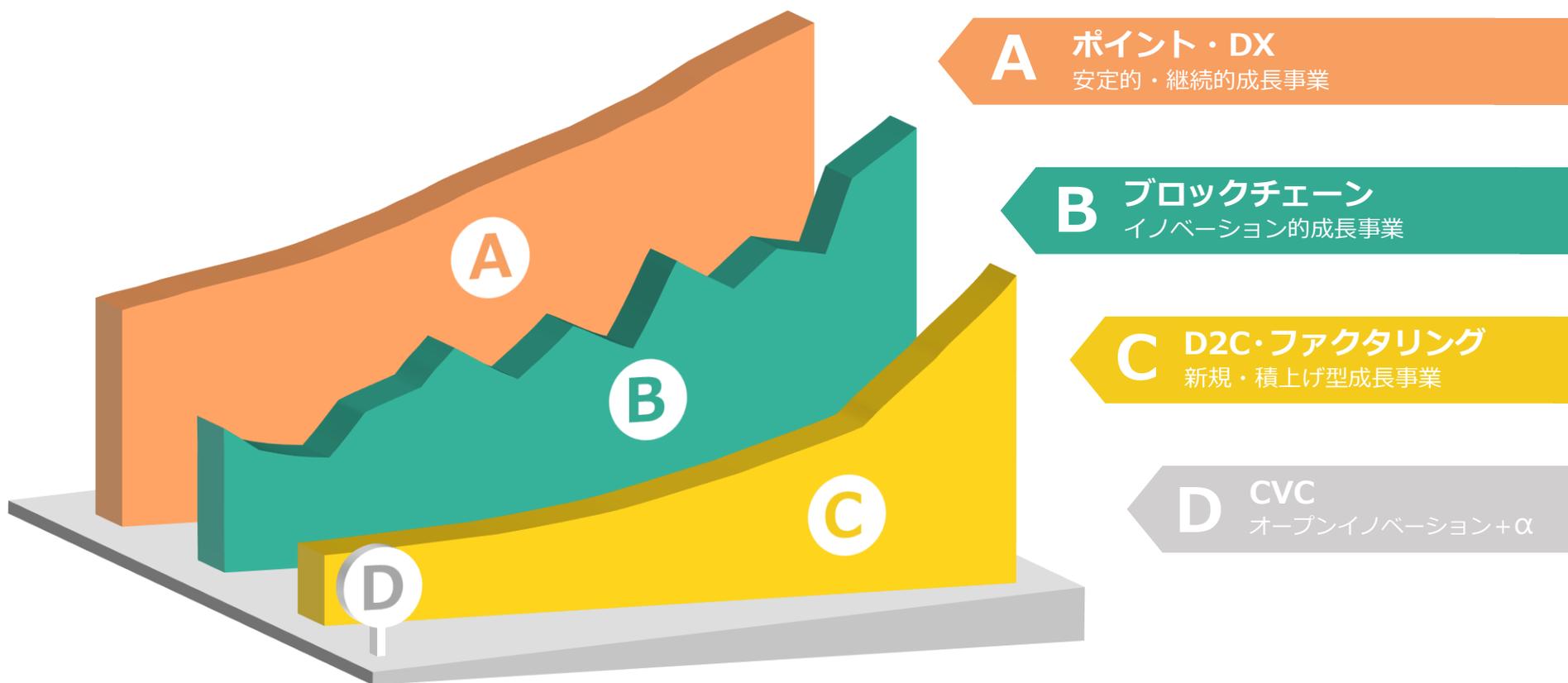
経常利益
100億円



主力のモッピーで安定的にキャッシュを創出し成長分野に積極投資 成長モデルの異なる事業を組み合わせ持続可能な事業ポートフォリオを構築

	セグメント	運営会社	サービス		
モバイルサービス	ポイント	株式会社セレス studio15株式会社	 	 	
	D2C	株式会社ディアナ 株式会社バッカス 株式会社サルース			
	DX	株式会社ゆめみ			
フィンシャルサービス	ブロックチェーン	株式会社マーキュリー ビットバンク株式会社			
	オンライン ファクタリング	株式会社ラボル			
	CVC (ベンチャーキャピタル)	株式会社アポロ・キャピタル			

成長モデルの異なる3つの事業ポートフォリオで中期成長をはかる
ポイント・DXで安定成長しブロックチェーン・D2Cで非連続な急成長を





APPENDIX

サステナビリティの取り組み

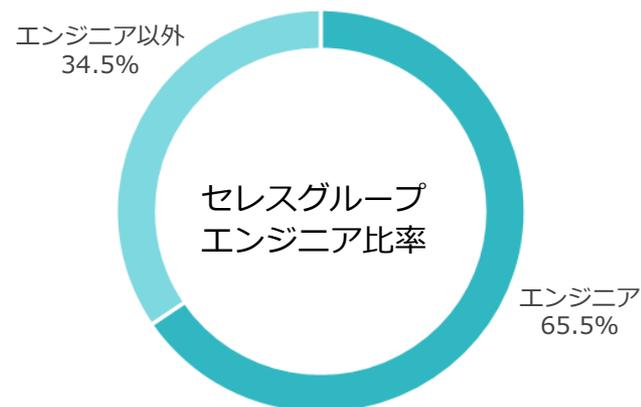
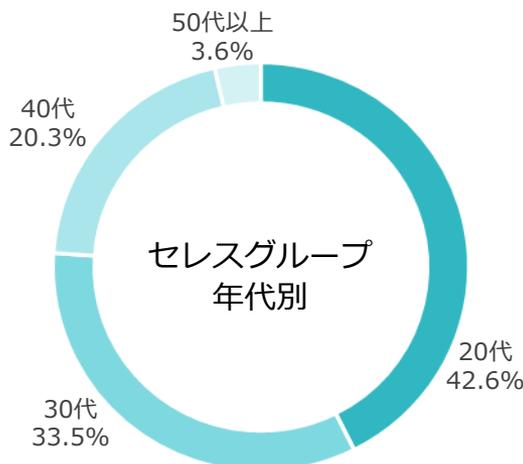
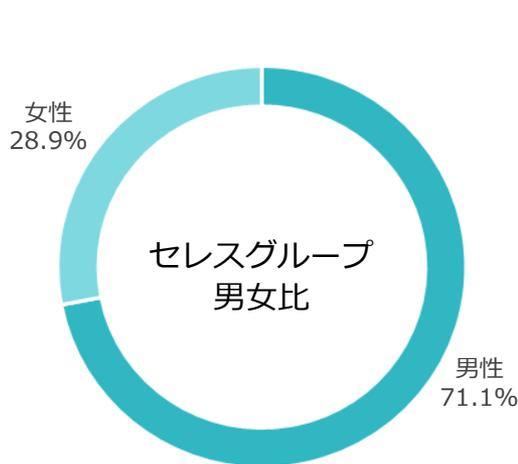
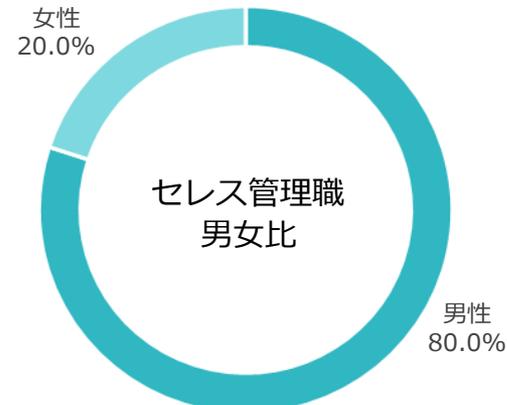
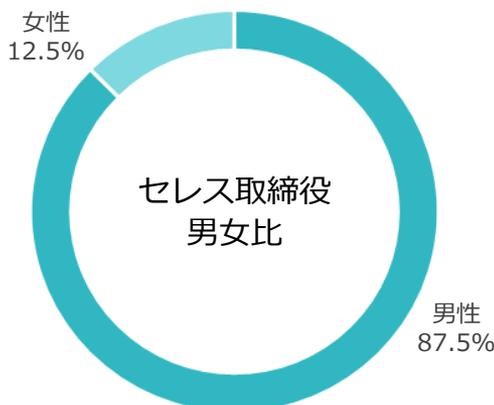
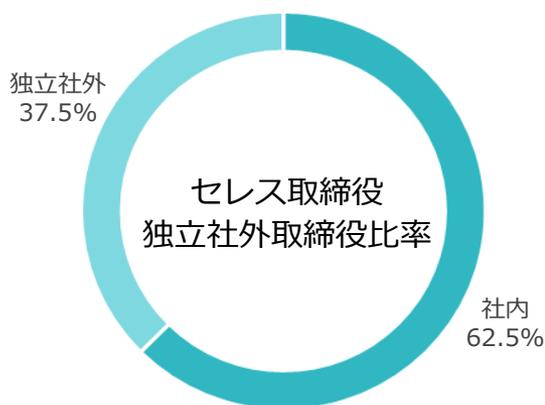
サステナビリティ経営における7つのマテリアリティ

特に注力して取り組むテーマである「7つのマテリアリティ」 サステナビリティ経営においてこれまでのESG戦略を一層強化

マテリアリティ		関連するSDGs					
1	自社サービスを通じた豊かな社会の実現への貢献						
2	オープンイノベーションによる社会課題解決・経済発展への貢献						
3	デジタル広告の公正な運用と業界の健全な発展への貢献						
4	環境に配慮した製品・サービスの提供						
5	多様な人材の活躍						
6	情報セキュリティとプライバシー						
7	コーポレートガバナンスの強化						

※サステナビリティサイトURL : <https://ceres-inc.jp/CSR/>

コーポレートガバナンスの取組強化により中長期的な企業価値向上へ持続的成長のためにジェンダー平等などダイバーシティの充実を推進



※ 2024年1Qより有価証券報告書の記載内容に合わせて管理職の定義を変更しております。
※ データは2024年3月末時点

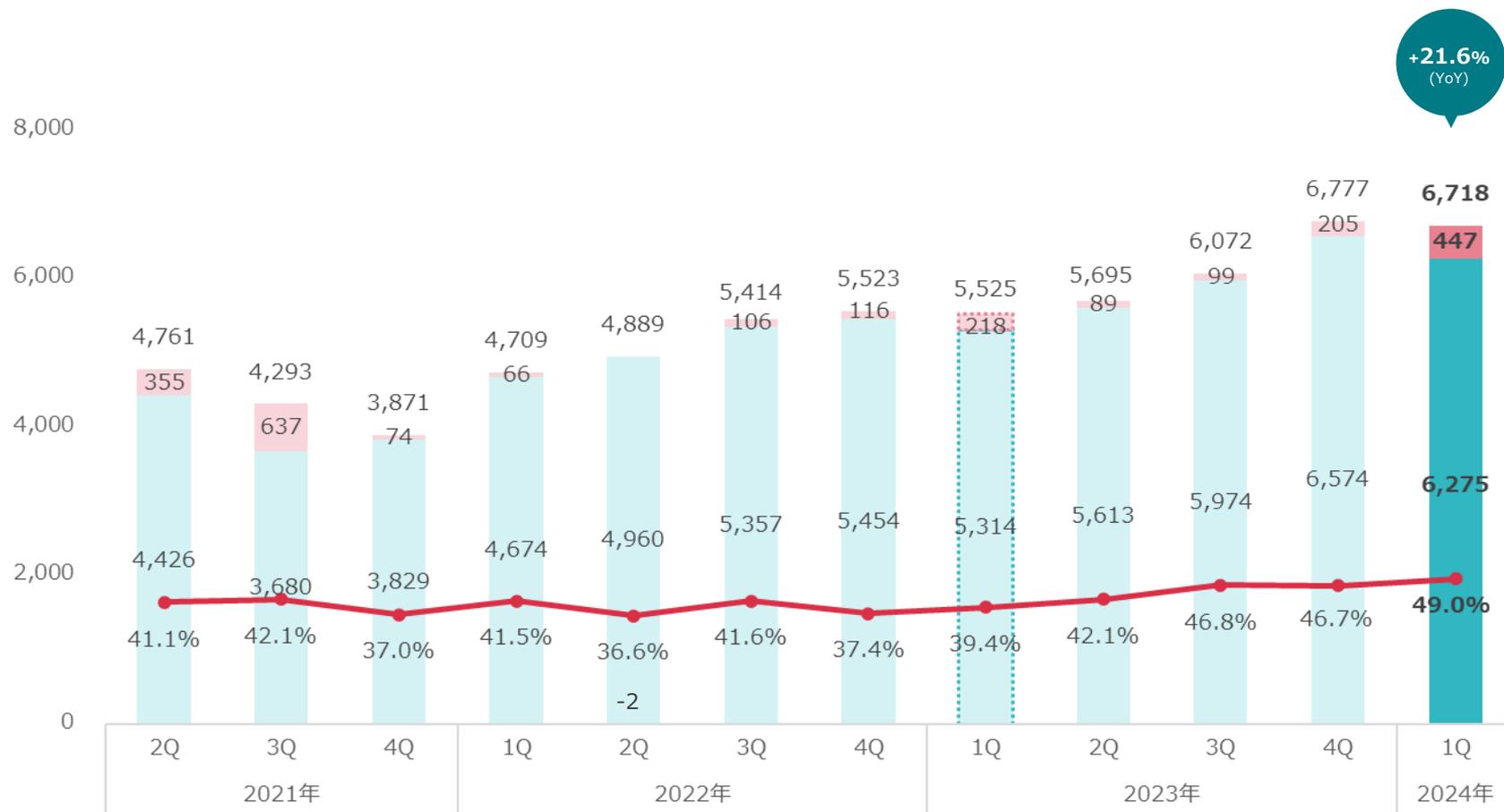


APPENDIX

業績推移

四半期売上高推移

(百万円)



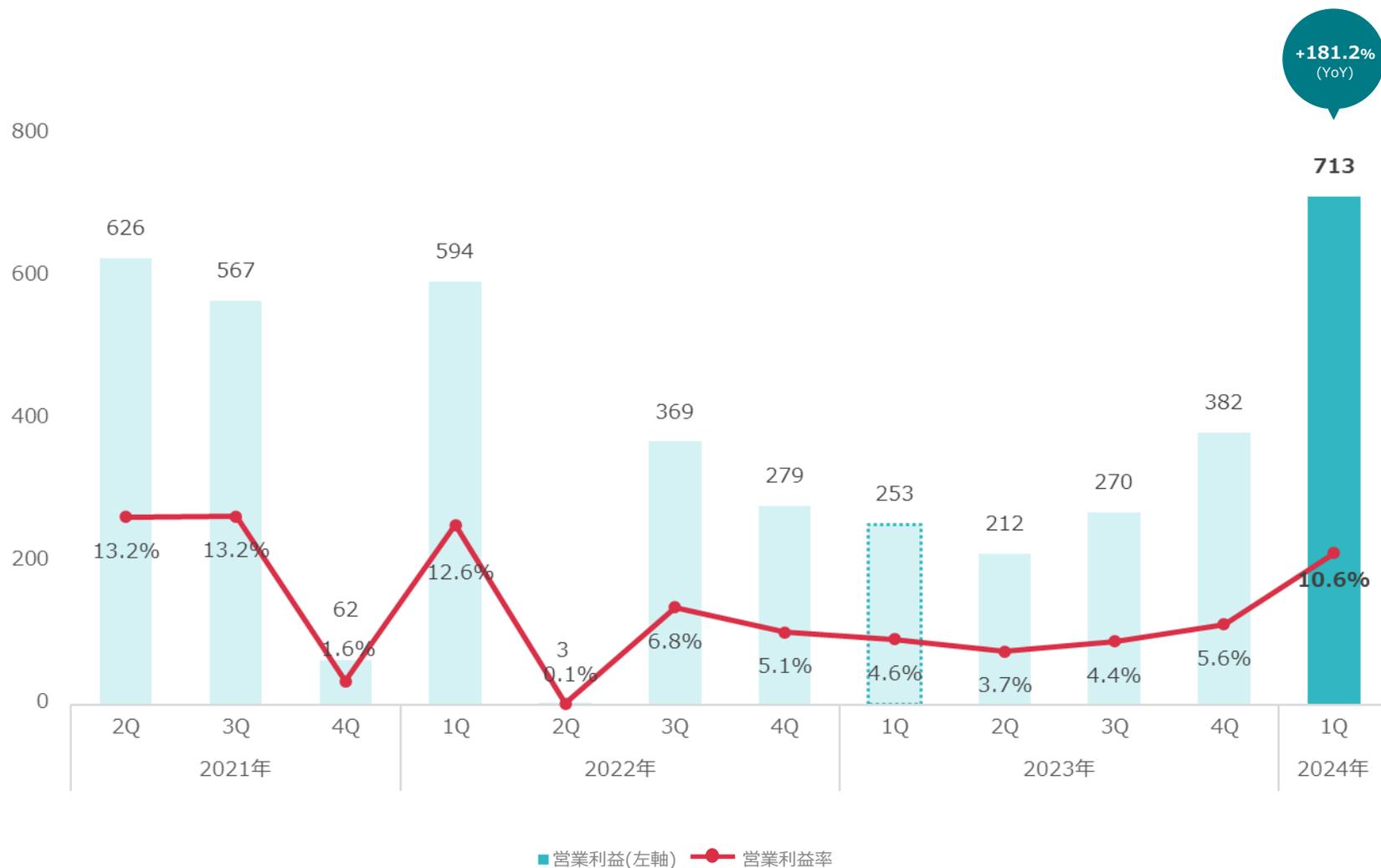
+21.6% (YoY)

■ モバイルサービス事業売上高(左軸) ■ フィナンシャルサービス事業売上高(左軸) ● 売上総利益率

※ 2021年度以前の売上高は新収益認識基準等を遡及適用したと仮定した数値で記載しております。
 ※ セグメント内区分の変更により2021年度以前のモバイルサービス事業の内訳を修正して記載しております。
 ※ セグメント内の内部取引高については、グラフに与える影響が軽微のため表記しておりません。

四半期営業利益推移

(百万円)

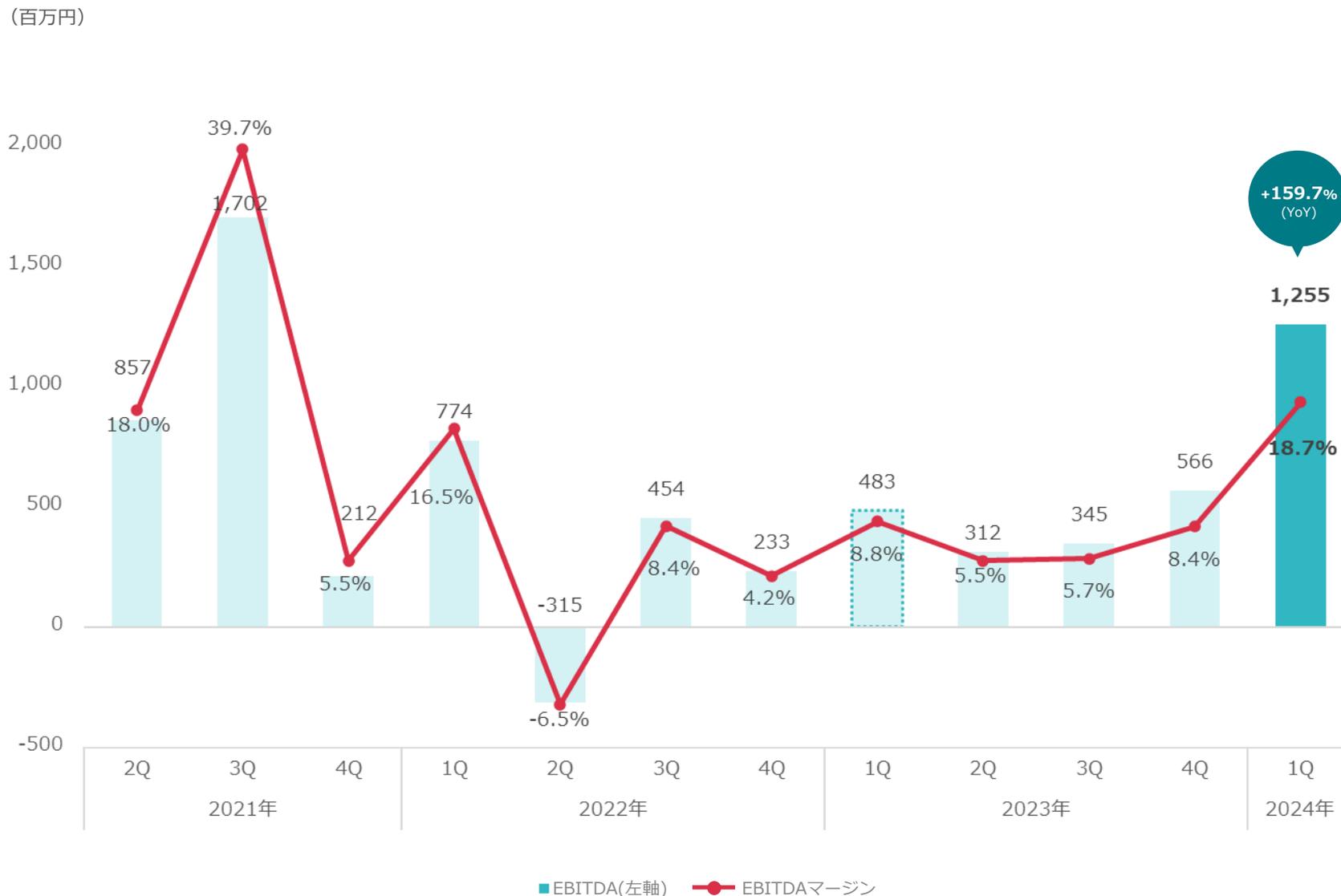


四半期經常利益推移

(百万円)

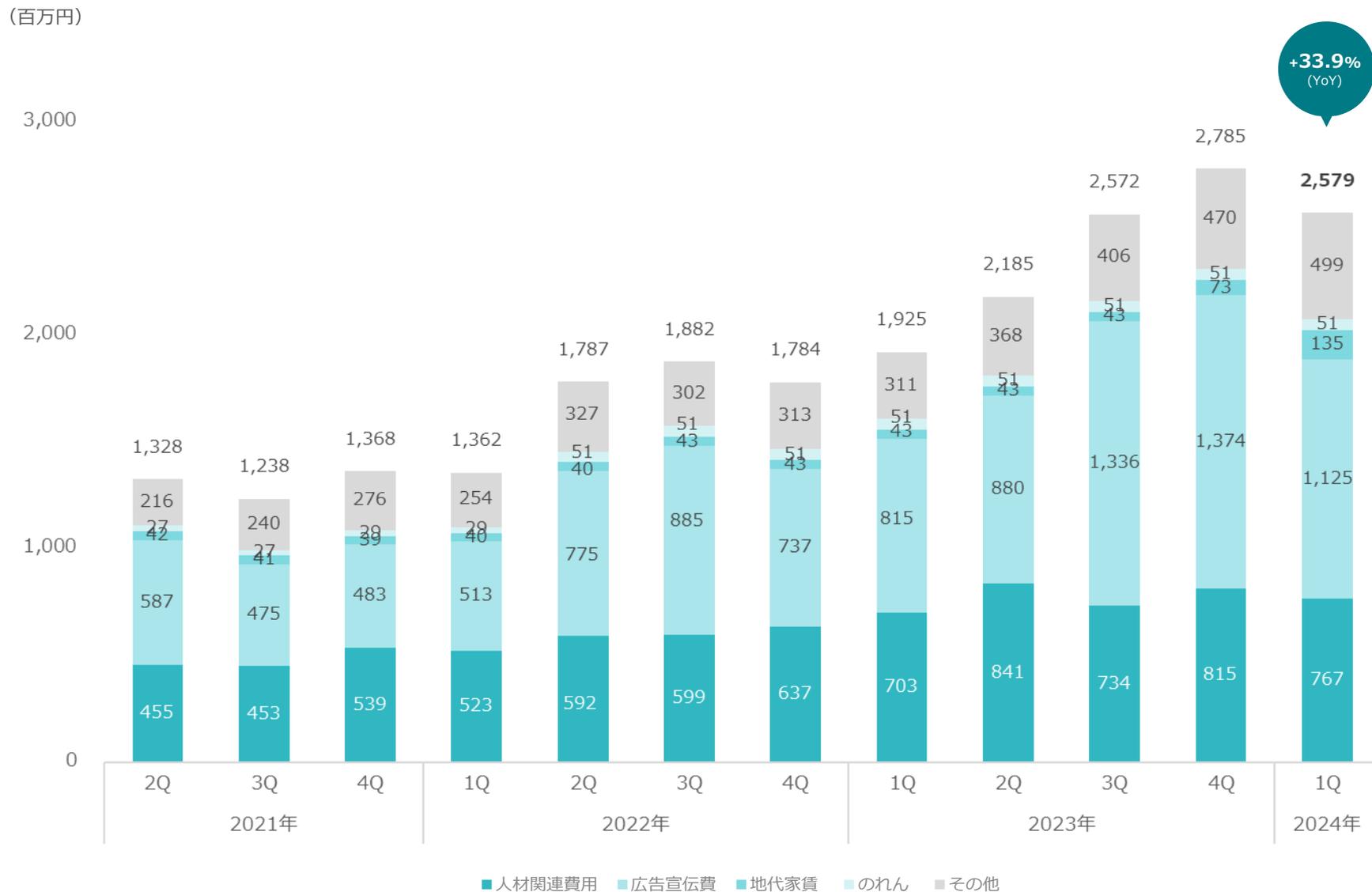


四半期EBITDA推移

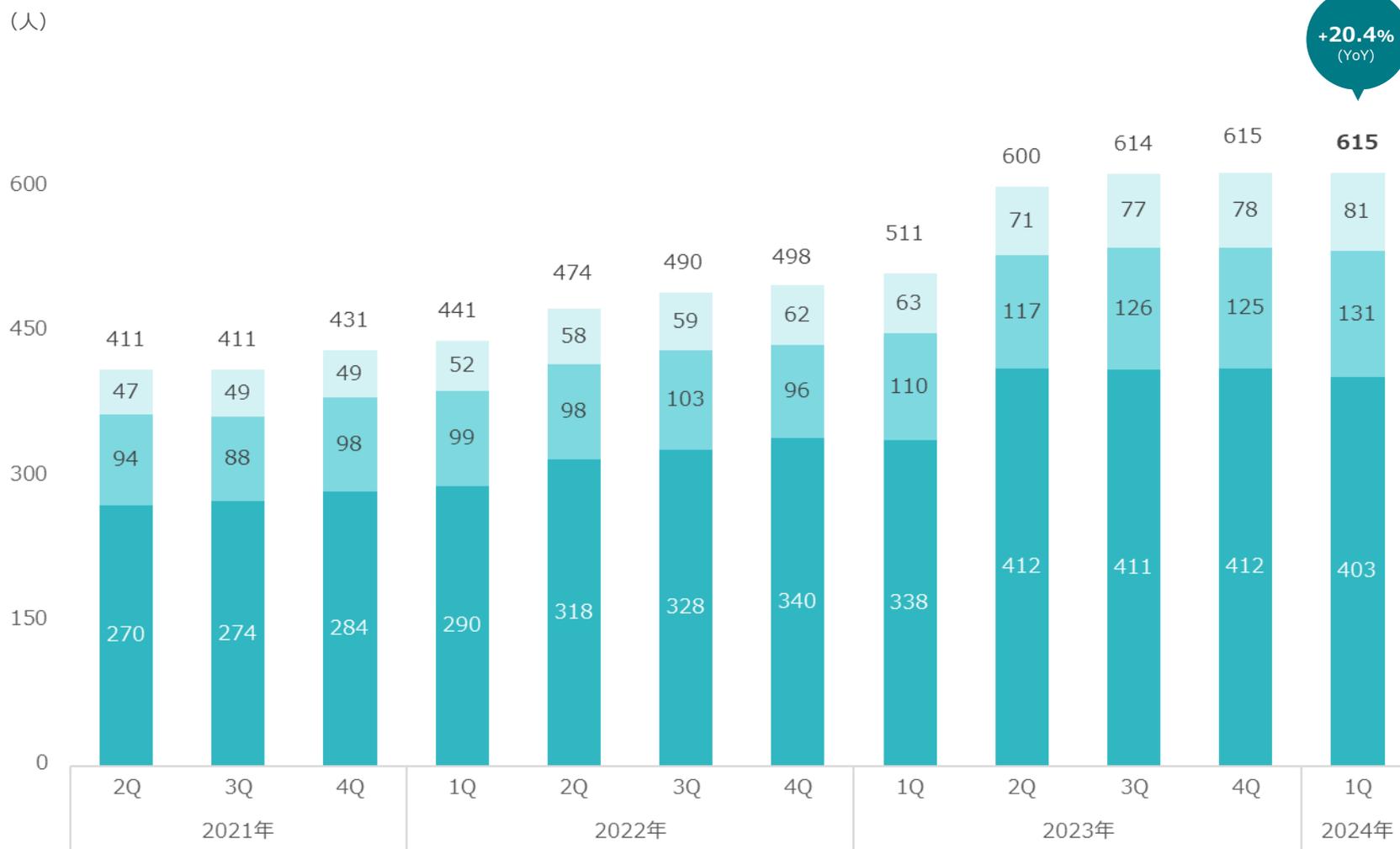


※ EBITDA = 税金等調整前四半期純利益 + 支払利息 + 減価償却費 + のれん償却費(持分法による投資損益に含まれるのれん償却に相当する額も加算) + 減損損失

四半期販売費及び一般管理費推移



従業員数推移



※ 契約社員、派遣社員、アルバイト は含まず

■ エンジニア ■ マーケティング ■ コーポレート

四半期売上高

(単位：百万円)	2022年			2023年				2024年
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	4,889	5,414	5,523	5,525	5,695	6,072	6,777	6,718
モバイルサービス事業	4,960	5,357	5,454	5,314	5,613	5,974	6,574	6,275
ポイント	3,422	3,575	3,719	3,525	3,359	3,324	3,607	3,553
D2C	540	621	654	645	1,174	1,433	1,800	1,751
DX	1,082	1,167	1,149	1,210	1,104	1,250	1,211	983
セグメント内取引高	-84	-7	-68	-66	-25	-32	-45	-13
フィナンシャルサービス事業	-2	106	116	218	89	99	205	447
セグメント間取引高 / 調整額	-68	-49	-47	-7	-6	-1	-2	-4

四半期営業利益

(単位：百万円)	2022年			2023年				2024年
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業利益	3	369	279	253	212	270	382	713
モバイルサービス事業	588	877	817	686	762	812	926	1,119
フィナンシャルサービス事業	-283	-231	-249	-137	-256	-263	-239	-54
調整額	-301	-277	-288	-294	-293	-279	-304	-351



将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。